

声明「日本学術会議法改正につき熟慮を求めます」

学術は人類が手にしている崇高な知的営みであり、その発展は人類の進歩と福利を実現するための不可欠の条件です。各国にはナショナルアカデミーが存在し、それぞれの国の学術を代表するとともに、世界の学術界と連携することにより、人類の福利に貢献する国際的公共財を構成しています。成熟した先進国の政府は、ナショナルアカデミーの活動の自律を尊重し、介入しないことを不文律にしてきました。

一方、日本におけるナショナルアカデミーである日本学術会議については、2020年に内閣総理大臣による会員任命拒否が起り、政府と学術界の信頼関係が大きく損なわれたままになっていることは、大変憂慮されます。さらに現在、政府において日本学術会議法の改正が検討されていると伝えられています。今回の法改正が、学術会議の独立性を毀損するおそれのあるものとなっていることに対し、私たちは大きな危惧を抱いております。これは単に内閣府と日本学術会議との二者の問題ではなく、学術の独立性といった根源的かつ重要な問題につながるものです。

私たちは、日本が、学術を通じて人類に貢献し世界に知的な存在感を示す国であることを願っています。ナショナルアカデミーとしての日本学術会議がその任にふさわしいものとなるように、政府は性急な法改正を再考し、日本学術会議との議論の場を重ねることを強く希望します。

令和 5 年 2 月 19 日

天野 浩（2014年ノーベル物理学賞受賞者）

大隅 良典（2016年ノーベル生理学・医学賞受賞者）

小林 誠（2008年ノーベル物理学賞受賞者）

白川 英樹（2000年ノーベル化学賞受賞者）

鈴木 章（2010年ノーベル化学賞受賞者）

野依 良治（2001年ノーベル化学賞受賞者）

本庶 佑（2018年ノーベル生理学・医学賞受賞者）

森 重文（1990年フィールズ賞受賞者）